1 「学びに向かう力」を身に付けた子供の具体的な姿

「学びに向かう力」を身に付けた子供。その具体的な姿を、全職員で共有して日々の教育活動を展開することが大切です。まずは、目の前の子供の実態、家庭や地域を含む学校の実態に応じて、「学びに向かう力」を身に付けた子供の姿について全職員で対話し、明確にしましょう。なお、ここでは、本メソッドで整理した「学びに向かう力」に沿って具体の姿を例示しています。

「学びに向かう力」

主 「主体的に学ぶ態度」

- 自分なりの問いを立てる
- 自分なりのやり方で課題解決に向かう
- 楽しみながら、学びを進めている
- 新たな課題を見いだす

など

律 「自分を律する力」

- 目標の実現に向けて粘り強く努力する
- 様々な欲求に負けずやるべきことに取り組む
- 自分が立てた計画に沿って学習する
- 時間を考えて行動する

など

客 「自分を客観的に把握する力」

- 学習内容の理解度を認識する
- つまずきやミスの原因を分析する
- 変容や成長を確かめる
- 学習の内容や方法を見直し、修正する

など

関 「よりよい生活や人間関係をつくろうとする態度」

- 自分の夢や目標を意識しながら生活する
- 自他の考えや思いを認め、尊重する
- 相手の立場を踏まえ、協力して取り組む
- 他者のよさに学びながら、自分の考えをよりよいものにする

など

※次ページから示す、視点1～視点3では、主に育成を目指す力を 主 律 客 関 で示しています。

「学びに向かう力」やそれを身に付けた具体の姿は、学校や子供の実態によって、これら以外にも設定することが考えられます。何より、**目の前の子供たちにどのような力を身に付けさせたいか、どのような姿になることを目指すか**について、**全職員で対話する**ことが大切です。

【事例】
「自ら学びに向かう○○っ子とは」
○自分の言葉でめあてを立てたり、まとめたりしている。
○自分の課題に気付き、自分で取り組む問題を決めている。

【事例】
＜本校の考える主体的な姿＞
○自分事として捉える。
○活動の動機が明確にある。
○目標を明確にもつ。

本メソッドの作成にあたり、実践モデル校６校の実践研究を参考にさせていただきました。
各校の実践事例についてはこちらからどうぞ。